

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390200352		
法人名	株式会社 大洲産業		
事業所名	グループホーム 清風		
所在地	熊本県八代市町中6番3873-1		
自己評価作成日	平成30年9月10日	評価結果市町村受理日	平成30年12月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php">http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成30年10月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の一人一人の生活歴・生活史を大切にしたい支援を心がけています。これまでの暮らしを、維持し続けられるように、心地よい暮らしが提供できるように、その為には、どのような支援が必要なのかカンファレンスなどで話し合い、ケアに当たっています。入居者の皆様とてもお元気で、できる事がたくさんあります。皆さんからのリクエストには可能な限り応える事に力を入れ日々の活動の取り組んでいます。また、他事業所と合同で様々なテーマで毎月勉強会を実施し、認知症介護について学びを深めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設当初から入居者の「行ってみたいか〜!」「あそこによく行きよったよ!」の一言を大切に、職員は聞き逃すことなく、また、その一言を引き出せるような関わりを大切にケアにあつたている。本年度も行きつけとなったカフェでのコーヒータイムや大型スーパーでの買い物、温泉利用をはじめ、様々な外出が継続されている。また、入りたいタイミングを尊重することで、楽しい入浴に繋がることや、排泄の失敗が無いことが尊厳や不快のない時間となることなど、管理者は大切にしていきたい「清風のケア」を語っている。法人を同じくするグループホームと共に力を入れている、米や精肉・鮮魚をはじめ、こだわった食材を利用した食事の提供は、入居者に好評であり、食事を共にする職員にとっても力の源になっている。近々予定されている家族参加の日帰り旅行が今年先行先を天草として予定されている。今後も入居者の発した一言を大切に日々のケアに努めていきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念の構築を前年度からの目標に挙げ、職員で話し合いをし進めている。事業所理念の意味を掘り下げて考え、介護理念を決め実践している状況。	ホーム理念を柱として、より具現化した介護理念を設定し、日々のケアの規範としている。開所より一年を経験したことでこの夏にはホーム理念を見直し、全員の総意として現行のままで継続することを決定している。理念は新たに入職した職員に、ホームの基本姿勢として伝えられ、運営推進会議などで啓発している。	介護理念の設定は、ケアの原点としてより具体的な支援内容が網羅されている。今後は振り返りの場として、職員個々の自己評価を含め、ホーム全体としてどれだけのことが実践できたか、不足している点は何かなど立ち止まる機会を作る事を望みたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月開催される、認知症カフェに参加し、地域の高齢者と交流する機会がある。また、いきいきサロンへの参加も行き、地域の高齢者と日帰り旅行に出かけたり、講座を聞いたりなど、楽しみながら生活されている。	八代臨港線沿いに位置するホーム周辺は、古くから自治会活動が盛んであり、地域の一員として開所時より様々な行事に出向き、入居者が人々と関わる機会を設けている。また、個別に地域資源を活用し、行きつけであったコーヒー店や、食堂への外出も途切れることなく継続している。道路両脇は大型スーパーや商店が点在しているが、歩道を入ると、昔ながらの田畑が広がり、入居者には何よりの散歩コースとなっている。	入居者が社会の一員として地域へ出ることは喜ばしい事であり、今後も体調や状況を見ながら各行事に参加されることを望みたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度も、近隣の事業所と協力し、地域会議での情報発信と共に、事業所間での情報交換も盛んに行い、地域貢献につながった。また、今年度は運営推進会議などを利用し、認知症についての研修や、地域の災害についての研修会などの開催もでき、地域との繋がりが深まった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではなるべくたくさんのご家族に参加していただけるようにと、いろいろ検討中も、参加していただける家族が固定している現状。また、会議内容も報告のみの一方的なものになっており、共に考えるまでには至っていない。	行政関係者や包括職員・地域や家族代表者が参加委し、リビングを会場として開催している。入居者が全員会議に同席することもホームの特徴であり、緊張されながらも行事後の感想を述べたりしながら参加されている。今年度より義務付けとなった身体拘束についても、取り組みや姿勢を示している。また、会議の場を利用し、地域の人々と料理教室を開くなど工夫している。	運営推進会議を地域交流の場として活用し交流を図っており、今後は災害時の避難訓練を定例化し、合同で行う事も視野に入れて頂きたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や身体的拘束の適正化検討委員会などにも参加していただき、都度分からない事を教えて頂いている。また、介護報酬改定時や、制度改定時などは研修会を開き詳しい説明などとして頂き十分な協力体制が築けている。	行政や包括職員が運営推進会議に同席しており、情報の交換、共有を通じ良好な関係を築くよう努力している。管理者は事故報告などの書類提出に役所を訪れ、担当者と直接顔を合わせながら必要な助言を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度、身体拘束の研修会の回数を増やし、職員教育に力を入れている。また、スタッフ間でもお互い気になる事は声を掛け合いグレーゾーンのケアもお互いで見逃さないよう対応している。	本年度身近に起きた事例をもとに話し合い、職員はショックを受けながらも自分自身に置き換えながら入居者への関りや、ストレスケアについて考える時間を持っている。センサーマットの必要性についても、いらなくなれば早い段階で使用を中止するなど、必要の是非について話し合っている。ホームは地域4か所のグループホームと連携し、毎月の合同勉強会を開催しているが、身体拘束や虐待については、特に時間を割いて取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	GH部会の研修会や事業所内での研修会など、定期的に研修を行い、自分たちのケアを振り返るようにしている。また、スタッフ同士でも、お互い気を付け合えるような関係づくりに心掛け気づいたことはその場で伝えたり、気づきボードに書く様になっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在のところ対象者がなく、管理者も含め十分な理解には至っていないが、年間の研修計画表に権利擁護についての研修会を盛り込み知識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の時は重要事項説明書・契約書を丁寧に説明し、気になる事や、分からない事などがないか確認しながら契約している。また、定期的にご不明な点がないか、声掛け対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や担当者会議などで、ご意見を頂くようにしている。また、玄関にご意見箱を設置しているが、意見を頂けていない現状。今後は定期的にアンケートなどを行い、利用者・家族の意見を引き出す工夫が必要。	まだ“家族会”の立ち上げはないが、面会や行事への参加が得られ、職員は入居者の暮らしぶりを伝えながら家族から意見を引き出すよう努めている。入居者の要望は普段の関りから得られた情報を共有しており、旅行先や外出先への希望にも入居者や家族の意見が反映され、恒例行事として実現している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス時など、職員から出た意見は管理者を通じ代表に伝え、必要に応じて対応して頂いている。代表と直接話せる機会が欲しいと感じている職員もいる為、今後は代表を含めた定期的なカンファレンス開催も検討していきたい。	現在、調理専任の職員を含む9名が入居者を支援しており、配置的にも余裕が感じられる。職員は他の4事業所との合同勉強会を立ち上げており、テーマを決めて毎月開催している。また、グループホーム連絡協議会での研修やホーム独自の勉強会など自己研鑽の場として支援に反映できるよう努力している。日々の課題はその都度話し合い、即戦力をもって対応に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職能評価シート使用し職員の成長を評価するシステムがあり、努力や実績に応じて給与水準・賞与などで反映されている。また、職員のやりがい・向上心を支えるため、研修会なども支援する体制がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム部会の研修や、内部研修などを毎月行う事で職員のケア力を高める役に立っている。今後は、研修に参加できなかった職員への伝達講習ができるようにしていきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH部会の研修会や合同研修会などに参加することにより、同業者と意見交換する場があり、ケアの事やホームでの活動などお互いの情報交換の場となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご相談があったら、ご家族からお話を伺い、ご本人からもお話を伺うようにしている。また、担当制とし濃厚な関係づくりに努めているが、十分な関係づくりまでには至っていない。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話をじっくり聞き、困っている事、不安な事の把握に努めている。また、どの様に暮らしてほしいのか、要望も尋ね、できる限り意向に添えるようにしている。職員間で認識の差が生じ信頼を失わないよう情報共有には気を付けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご相談内容をしっかり聞き、事業所内で話し合い、利用者・家族にとって最善の支援を検討している。事業所だけでは判断できない時は、地域の他事業所や包括支援センターなどにも相談し検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は生活の主体者・職員は生活のパートナーの理念を常に頭においてケアに当たっている。時には介助しすぎる場面もあるが、その都度カンファレンスなどで振り返り、その都度共に過ごし、支えあう関係を考えるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などに、利用者の現状を伝えたり、ご家族の要望を伺ったりしている。また、利用者からの要望を家族に伝え、できる限り協力して利用者の要望が叶えられる様に考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの喫茶店や、美容室、自宅への外泊や馴染みに人との面会など可能な限り、入居前の人間関係を続けられるように支援している。また、出かけた先で会った方などから情報を頂き、本人も忘れていた馴染みの関係を蘇らせたりもできた。	大好きな馴染みの味を求め、喫茶店や食堂の利用、好みのヘアに整えてくれる美容室など入居者のこれまでの楽しみ事などを継続している。また、系列のグループホームに出かけ、芋ほりを楽しむなど互いの行き来も馴染みの関係となっている。月命日の帰省や外泊なども家族の協力により実現している。畑仕事で得意分野を発揮したり、お気に入りの帽子や衣服を身に着け過ごす時間など、特技や趣味、こだわりについても継続して支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士喧嘩になったりすることもあるが、職員が間に入り対応している。また、利用者同士、できない事を助け合う姿がよくみられ、職員もそれを見守ることが出来ている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、可能な限り様子を伺いに行っている。また、状況に応じ入居者も一緒に会いに行き、ホームで出来たお友達の関係が続く様に支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	まずは、本人の声を聴く事を意識して日々のケアを行っている。本人の希望を聞き逃さないように、発信がない方にはこれまでの生活歴から思いを巡らせ声掛け対応している。本人本位については、職員の満足に終わらないよう、日々のカンファレンスで話し合い検討している。	毎日何らかの形で、入居者と一緒に寄り添いながら過ごす時間を持っており、その中で気づいたことをケアに活かしている。また、管理者は職員の思い込みで判断せずに、入居者の言動や行動、他の職員からの情報や意見を聞きながら、その方の思いをプランに繋げている。家族の来訪も多く、面会時には現状を伝える中で、何か気づかれたことなども確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報については、ご家族や担当ケアマネージャーから情報をもとに把握に努めている。入居後は、面会に来られて方や、出かけた先の馴染みの方などから、以前の暮らしぶりなど情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のペースに合わせ、希望に合わせた暮らしができるよう支援している。職員の都合で過介護になりすぎないように、できる事・できない事の把握をしっかりケアするようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成前に担当者会議を開催し、本人・家族の希望・要望を尋ね反映させるようにしている。また、日々のケアの中での課題は、日々のカンファレンスで話し合い対応検討しプランに追加・修正を行いケアの統一を図っている。	入所に至った経緯は様々であるが、職員は入居者のこれまでの生活歴を把握したうえで、ホームにできる最良の対応をするようプランに組み込んでいる。入居間もない方には出来ることで力を尽くしてもらいながら、ホームでの生活に早く慣れて頂く様な職員の言葉かけがプランに記載されている。プランの説明にあたっては、介護計画作成者を中心に、説明や話し合いが十分行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の研修会をしたことで、日々の記録に気づきや、工夫などが少しずつ上がってくるようになり、職員間で共有できるよう、工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のしたいことには、どうにか対応できるようにしている。社交的な利用者に、ホーム以外の場所でも交流の場が持てるように、いきいきサロンに出かけたり、彼岸花が見たいのリクエストにピクニックに出かけたりと柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの場所や人との関わりは大切にし、入居後も馴染みの喫茶店に行ったり、毎月の法事には外出したりしている。また、地域での行事にも積極的に参加し、交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族と相談しかかりつけ医を決定している。基本的にはご家族に受診付き添いをお願いしているが、ホームでの状態などはノートを使い医師に伝えるようにしている。	本人・家族の希望するかかりつけ医を支援しており、受診は基本的に家族とし、ホームでの状態などはノートを活用しスムーズな受診ができるようにしている。入居者の日々の健康は看護職員を中心に協力医や専門医なども連携を図りながら、些細な変化や異常があれば早めの受診対応に繋げている。また、家族からの相談には適宜対応しており、適切な医療支援に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のケアで気づきたいとも違うサインを逃さず、記録に残し、みんなで共有するようにしている。看護師1名常勤で雇用し、日々の状態観察や急変時の対応など、24時間体制で対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際、ホームでの様子や、ケアで気を付けてほしい事を病院に申し送り、安心して治療ができるように対応している。また、定期的に面会に行き、医師や看護師から情報収集し状態把握に努め、できる限り早い退院支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	定期的に看取りの研修に参加し、看取りケアについての学びを深めている。入居時に看取り希望の有無をが家族に確認しその後は、プランの変更時や、状態変化時にその都度事前指示書を取るようにしている。	入居時に看取り指針をもとにホームの姿勢やこれまでの取組について説明を行い、その時点での意向を確認している。その後も状況に応じて家族と面談の機会を持ち、状態変化時に事前指定書をその都度受けるようにしている。看取り研修については、ホーム内やブロック研修をはじめ、交流のあるグループホームとの研修の中でも学んでいる。今後も入居者にとって最良の支援を日々の関わりの中で努めていきたいとしている。	今後も急変や事故発生に備え全職員の実践力を更に身に付けていくことなども課題としている。取組に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時を想定し研修やデモンストレーションなどで対応力を身に付けている。マニュアルの整備も進み、今後いざという時に備えていく必要あり。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中・夜間の火災想定し訓練している。地震や風水害を想定した訓練も行っている。訓練で出てきた課題が多数あり、今後は細かいところまで話し合い、いざという時への備えが必要。	年2回、夜間を想定した火災訓練と、地震や風水害など自然災害を想定した訓練を実施している。訓練で出された課題については、全職員で対応策を検討し、周知徹底していくことを重要としている。火災は火を出さない事が一番であり、火元の確認や避難誘導の妨げになるものはないかなども気を配っている。	今後も災害対策について職員の意識を高める機会を持つ事や、運営推進会議の中や家族の参加による訓練など継続して取組まれることを期待したい。また、敷地内が広いことから、燃える物が無いかなど今後も小まめに確認されることを期待したい。敷地内入り口の橋については、柵などもないことから車や歩行においても危険と思われる、検討いただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	何かするときは必ず本人の意思確認をするよう引き続き気を付けている。利用者の世界に入り今は子供の立場なのか、配偶者の立場なのか、その時々で言葉かけなどに配慮し対応している。	管理者は開設時から「家庭的な温もりのある雰囲気を感じてもらえるような環境作り」を重要な支援として取り組んでいる。ややもすると職員の動きや語り掛けが失礼になったり、周りの雰囲気を壊してしまうこともあり、その時々の入居者の状況に応じた支援を全職員が共有できるようにしている。また、自己決定できる環境に努め、好みの衣類や髪形、お化粧など身だしなみやおしゃれなども継続できるようにしている。	入居者一人ひとりの尊重やプライバシーに配慮した支援については、理念の共有と合わせて、支援内容別に振り返りを行う機会を持つ事も良いと思われる。取り組みに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の何気ない会話の中から、思いを察知できるように心がけている。また、何かするときは、自己決定できるような尋ね方をし、どうしたいのか確認するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の希望に合わせ、その人らしい暮らしができるように支援しているが、その事で健康面への影響が出る事もあり、カンファレンスなどで検討しながら対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの時には、自分の着たい服を選んでいただいたり、外出の時は、お出かけ着に着替えたりなど支援している。ネイルやお化粧を希望される方にはお手伝いしたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立をみんなで考えたり、料理をみんなで作ったり、時には弁当を作り、公園や花畑に出かけたりと楽しく食事ができるよう工夫している。また、食事の種類を多くし楽しみが増えるようにと、一品の量を少なくし品数を多く提供している。	入居者と一緒に献立を考え調理は専任者や職員によって行われており、台所からの音や匂いも会話を弾ませている。開設時から米や肉・魚など専門店からの配達により匂いを活かし、品数を増やした献立は好評である。「ここはごちそうでお米がきれいかですもん！」と、日頃の食事について話をしてくださる方もおられた。地域の飲食店を利用した外食や、弁当を持っての外出など、入居者の楽しみとなる食事支援が行われている。	職員も同じものを一緒に摂っており、更に思いが共有され、今後の食事メニューや調理方法などに活かされているようである。食事支援中切り分けなどでキッチンバサミを使用する際は、目の前ではなく調理場にて行うことや了承を得るための声掛けなど、配慮が必要と思われる。今後の取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりの食事量・水分量を把握し不足しているときは、好みの食事を提供したり、栄養補助食品で補ったりしている。また、決まった時間での食事の提供ではなく、食べたい時間・食べれそうなタイミングを見計らって提供したり工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けを行いその人に合った支援をしている。また、状態に応じて歯科往診を依頼し、ケアして頂いたり、職員へアドバイスをして頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄での失敗が少なくなるように、排泄パターンを把握し、トイレへの声掛けで対応している。また、体調に合わせて布パンツ、リハビリパンツを使い分け、可能な限り布パンツで生活できるような支援している。	個々の状態に応じ布パンツやリハビリパンツなど適切なものを職員間で共有し、日中はトイレでの排泄を支援している。排泄の失敗がない事は不快もなく、尊厳にも繋がることから、把握した排泄パターンにより声掛けや自立の方の継続ができるようにしている。トイレ内は臭気もなく清潔に管理されており、気持ちよく使用できる状況である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく下剤を使わなくて済むように、食事や水分量、適度な運動で便秘予防に努めている。毎朝手作りヨーグルトを提供するようになり、下剤の使用回数が減ってきている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は午後の時間に設定しているが、本人と相談し、可能な限り入りたいタイミングで入浴支援をしている。また、夜に入りたい方には、時間調整し希望の時間に支援したり、時には温泉に出かけたりもしている。	基本的に午後入浴を支援しているが、本人の希望も確認し、入りたいタイミングを尊重することで楽しい入浴や拒否なく入ってもらえるようにしている。中には夜間帯の入浴を希望されることもあり、職員は時間調整を行い可能な限り応じている。広い脱衣所や浴室内であり、季節に応じて室温管理には十分注意を払っている。また、身体機能の低下を見据えリフト浴も設置されている。	入居者の希望もあり温泉入浴へも出かけている。入浴の楽しみは個々に応じて湯温や入りたい時間、職員との会話など異なると思われ、今後も継続した取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないよう、日中の活動を工夫したり、午前中の時間は可能な限り朝日を浴び、体内リズムを整えるような支援をしている。また、本人の希望に合わせて休みたいときに休めるよう、対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	生活状況や個人の状態を把握し、必要に応じて主治医に相談報告し、過剰な服薬にならないよう気を付けている。1人ひとり薬事表ファイルを作り、服薬内容をみんなで把握し状態にあった服薬内容であるか考えるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりの残存能力を把握し、日々の生活の中で出来ることを自分でしていただく様にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に応じて、買い物に行ったり、ドライブに行ったり、天気の良い日にはお弁当を持ってピクニックに出かけたりと、楽しんで頂けるよう工夫している。また、年1回はご家族と一緒にバス旅行も実施しており大変喜ばれている。	開設当初から入居者の「行ってみるか！」などの一言を大切に、個別や少人数など行先に応じた外出支援が実施されている。また、広い敷地内や近隣の散歩は日課となっており、訪問当日も希望や落ち着かれない表情の方には職員が声をかけ、散歩に出る光景が見られた。様々な外出の様子は聞き取りや掲示された写真からも窺うことができ、家族からも好評を得ている。今年も秋には天草への家族一緒に旅行が企画されており、入居者に限らず支援する職員も天候を願いながら楽しみにしている。	地域や家族の協力を得ながら多くの外出が支援されており、今後も継続した取り組みに期待したい。今後も職員の工夫やアイデアを活かした外出支援が期待される。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出かける時は、好きな商品を手で選びお財布を預け自分で支払いしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、ご家族や親族に電話をかけたり、電話があった時は、本人とお話して頂いたりしている。お手紙を書くことはできていないが、写真手紙で職員が近況報告をしたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、台所で調理をし、生活の中においを感じたり、季節感や生活感が感じられる空間作りを心がけている。掲示物も利用者と一緒に作り飾っているが、季節外れのものにならないよう気を付けている。	ホーム内には敷地内や散歩時、職員が持ち寄った草花が飾られ、壁面や掲示された外出時の写真と共に季節を感じる事が出来る。高い天井と共にゆとりの広さの廊下は圧迫感がなく、入居者の歩行訓練にも活かされている。CDラジカセからの懐メロなどは日課として流されており、入居者も昔の歌に表情も緩やかになっている。台所からの音や匂いも会話のきっかけにも繋がっている。	開放的な造りとなっているホーム内は、温度設定も季節や入居者に応じてエアコン調整や換気により居心地よく過ごせるようにしている。今後も職員自身が大切な環境として、支援にあたられることを期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内にはソファを数多く配置し、好きなところで過ごせるようにしている。また、外の椅子を用意し、外の空気にあたり風を感じたり、裏の田園風景を眺めのんびり過ごしたりと、自由に、自分の時間を過ごせる支援を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みの家具を持参していただき、居心地のいい空間になる様支援している。また、担当職員が作った写真や飾り物を配置したり、生活感のある部屋になる様工夫している。	入居者にとって安心して過ごせるよう、担当職員を中心に写真などの掲示や家具・ベッドの向きや位置を検討している。入居時には管理者より馴染みの品の持ち込みや衣替えの協力などを伝えており、タンスや着慣れた衣類・寝具をはじめ、中には心の拠り所となる仏壇や家族の写真が置かれた部屋もある。広さが十分な居室であるが、場所により採光や室温も若干異なることから、一人ひとりの状態や希望に応じて居心地よく過ごせるよう温度設定を行っている。	居室は入居者にとっての我が家であり、職員は生活感のある部屋となるよう、家族の協力も得ながら取り組んでいる。今後も換気や掃除を行う際は、掲示物のずれや写真の向きなどにも目を向けて行うことも流れの中に組み入れる事で環境作りの一つに繋がると思われる。取り組みに期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に過ごせるよう、不必要なものは置かず、スペースを広くとるようにしているが、その事で、自立した生活の妨げにならないよう配慮しながら環境づくりに励んでいる。		